

目 次

まえがき	i
序章 研究史の整理と課題の設定	1
第1節 研究史の整理と課題の設定	1
(1) 研究史の概観	1
(2) 『実業之日本』への関心の薄さと研究の困難さ	5
(3) 『実業之日本』と実業之日本社研究の意義	7
(4) 本論文の構成	8
第2節 日本における雑誌史の概略	13
(1) 雑誌の始まりと発展	14
(2) 明治期の経済雑誌	15
(3) 大正～昭和初期（1910～20年代）の雑誌界	17
第一章 実業之日本社の創業期 1897～1903年	22
第1節 『実業之日本』創刊以前の増田義一	22
第2節 『実業之日本』の創刊と実業之日本社の創業	24
(1) 大日本実業学会と光岡威一郎	24
(2) 『実業之日本』の創刊	25
(3) 『実業之日本』発行権の譲渡・継承	28
(4) 実業之日本社の創業	30
第3節 創刊期の『実業之日本』の論調	31
(1) 実業の重視	31
(2) 実業教育の重視	33
(3) 金融・経済政策への提言	33
(4) 貿易拡張の提唱	35
第4節 実業之日本社の転機	37
(1) 『実業の帝国』の出版	37
(2) 読者・社会の反応	38
(3) 編集方針の転換	39
(4) 「成功」の時代	41
A 『成功大観』の発行	41
B 社会的反響	42
C 「成功」の時代	44
まとめ	46

第二章 実業之日本社の発展期	1904～1907年	49
第1節 日露戦争期における『実業之日本』		49
(1) 日露戦争と国民生活		49
(2) 日露戦争期における新聞界の動向		50
(3) 日露戦争期における『実業之日本』		52
A 日露開戦論		52
B 『征露戦報』の発行		54
第2節 日露講和反対論の展開		58
第3節 日露戦後経営への提議		60
(1) 「国民的専念主義」と戦後経営方針への提議		60
(2) 産業組織刷新の提唱		61
(3) 対外的経済発展の主張		62
(4) 軍備拡張の批判		63
(5) 実業重視財政の提言		65
第4節 『実業之日本』の創刊十周年		66
(1) 日露戦争後の出版界と実業之日本社		66
(2) 『婦人世界』の創刊		67
(3) 『日本少年』の創刊		71
(4) 委託販売制の成功 実業之日本社の躍進		72
(5) 『実業之日本』創刊十周年		74
A 十周年記念号の発行		74
B 記念園遊会の開催		75
まとめ		77
第三章 実業之日本社の拡充期	1908～1912年	79
第1節 『少女の友』の創刊		79
第2節 新渡戸稲造の編集顧問就任		81
(1) 新渡戸稲造と実業之日本社		81
(2) 新渡戸稲造の編集顧問就任		84
(3) 『実業之日本』における新渡戸稲造の「伝道」		87
第3節 実業之日本社の文化・社会事業		89
(1) 全国小学校児童成績品展覧会の開催		89
(2) 各地における講演会の開催		93
A 各地の講演会の盛況		93
B 大隈重信と『実業之日本』		96
(3) 明治記念事業・頌徳事業の提議		98

(4) 「利益分配制度」の採用-----	99
第4節 『実業之日本』の論調-----	100
(1) 煩悶青年への対応と「修養」の強調-----	100
(2) 「実業の帝国」の建設-----	102
(3) 軍事主義的財政への批判-----	103
(4) 「実業的」移民と商業の海外発展の鼓吹-----	106
(5) 実業教育の提唱-----	107
(6) 勸善主義と武士道精神-----	110
第5節 増田義一の政界入りと辞任-----	112
まとめ-----	117
第四章 実業之日本社の繁栄期 1913～1922年 -----	121
第1節 「民衆の時代」と新聞雑誌界の動向-----	122
(1) 「民衆の時代」の到来-----	122
(2) 新聞雑誌界の動向-----	123
(3) 東京雑誌組合の発足——実業之日本社、雑誌界の頂点にたつ-----	124
第2節 実業之日本社の経営-----	126
(1) 実業之日本社の盛況-----	126
(2) 創業二十周年記念事業-----	127
A 小学校校長 10名のアメリカ派遣-----	127
B 講演会の開催-----	128
C 全国児童賀表捧呈会の組織-----	129
D 『小学男生』『小学女生』創刊と『大観』の引き継ぎ刊行-----	130
(3) 各種の記念活動-----	132
A 『婦人世界』の創刊十五周年-----	132
B 実業学校校長団の海外派遣-----	136
(4) 出版物の多様化-----	137
第3節 『実業之日本』の論調-----	142
(1) 国力増進論の提唱-----	142
(2) 南進論の展開-----	145
(3) 第一次世界大戦と国際連盟について-----	147
(4) 「デモクラシー」観-----	149
(5) 「労資協同」論の提唱と社会主義・共産主義・無政府主義の批判-----	151
(6) 清富論と成金論-----	155
まとめ-----	156

第五章 関東大震災と実業之日本社	1923～1924 年	159
第1節 関東大震災後の社会状況		160
(1) 関東大震災による新聞界の変化		160
(2) 復興計画の実施と実業之日本社		163
(3) 新しい都市文化		165
第2節 関東大震災と実業之日本社		166
(1) 関東大震災前後の実業之日本社		166
(2) 『少女の友』の発売禁止		168
(3) 新築社屋の落成		170
第3節 「天譴論」の諸相		171
(1) 「国民精神作興に關スル詔書」と国民思想の涵養		171
(2) 増田義一の「天譴論」		172
A 「訓練なき」国民性の批判		173
B 増田の「天譴論」		174
(3) 『改造』における「天譴論」		177
(4) 『東洋経済新報』と「天譴論」		179
(5) 「天譴論」をめぐる諸論		181
(6) 大震災後の増田義一の政治観		186
A 「更始一新」と第15回衆議院議員選挙		186
B 「階級の調和」と階級闘争の否定		190
第4節 震災復興事業と『実業之日本』		192
(1) 帝都復興事業推進の主張		192
(2) 大震災後のインフレ政策批判		193
(3) 小作争議の「調和」		194
(4) 国際心の養成		196
まとめ		197
第六章 実業之日本社の停滞期	1925～1931 年	200
第1節 政党政治・大衆文化の時代の実業之日本社		201
(1) 政党政治の時代		201
(2) 出版界の新潮流		202
A 講談社		203
B 岩波書店		203
C 文芸春秋		204
(3) 追われる実業之日本社		205
(4) 『無憂華』の大ヒットの功罪		207

(5) 実業之日本社創立三十周年記念講演会	208
(6) 「受難」時代の宣言と『健康時代』の発刊	211
(7) 実業之日本社の凋落	215
第2節 『実業之日本』の論調(一) 不況と「受難」の時代の中で	219
(1) 普通選挙の擁護	219
(2) 「昭和新進」論	220
(3) 産業合理化の提唱	223
(4) 国産奨励の提唱	224
(5) 積極的金解禁の促進	226
(6) 農村文化の提唱	228
(7) 「受難」時代への対応	230
第3節 『実業之日本』の論調(二) 国際関係の重視	233
(1) 軍縮の主張と対中国貿易重視	233
(2) 国際的立場養成の提唱	236
第4節 『実業之日本』の論調(三) 「恐るべき爛熟文明の弊」	237
(1) 共産主義批判	237
(2) 「恐るべき爛熟文明の弊」	239
まとめ	241
終章 総括と今後の課題	244
第1節 その後の『実業之日本』と実業之日本社	244
第2節 総括と今後の課題	248
(1) 総括	248
(2) 日本雑誌史の中での『実業之日本』と実業之日本社	252
(3) 今後の課題	256
付録資料Ⅰ 実業之日本社年表(1897～1931年)	259
付録資料Ⅱ 『実業之日本』目録一覧(社説&論説)	263